

令和7年度第2回「かごしま外国人材受入れ活躍推進会議」

- 1 日時 令和8年2月18日(水) 13:30~15:40
- 2 開催方法 ホテルウェルビューかごしま2階 潮騒(ハイブリッド開催)
- 3 出席者 83名(経済・業界団体, 監理団体, 有識者等, 国, 市町, 県)
- 4 内容
  - (1) あいさつ
  - (2) 外国人材の受入活躍推進に向けた県の取組
  - (3) アンケートに基づく外国人材受入に関する意見交換
  - (4) 高度外国人材に係る有識者講話
  - (5) 高度外国人材ワーキンググループの運営状況及び開催結果報告
  - (6) (4)及び(5)に係る質疑応答, 意見交換
  - (7) その他

外国人材の受入活躍推進に向けた県の取組

○ユニバーサルリンク事業協同組合

県が実施する海外送り出し機関と県内監理団体とのマッチングは、送り出し機関における外国人材の職種や業種が様々であり、マッチングの成果にばらつきがある。

県内の監理団体は、来年度からの育成就労制度の施行に向け、現在、監理支援機関になるための許可申請の準備を進めている状況。

○鹿児島大学法文学部

この会議が、意見交換の場なのか、情報共有の場なのかを議論したほうがよい。この会議で意味のある充実した議論をしていく必要があるのであれば、会議のやり方を考えていただきたい。全員が主体的に参加できる場になればと思う。

⇒事務局

推進会議は、課題等を深掘りして、今後の施策に繋げる場にしたいと考えている。このため、今回は事前にアンケートを実施し、それを踏まえて意見交換をする形で実施したところ。今後も改善していきたい。

○鹿児島大学法文学部

令和7年11月の多文化共生社会の実現を目指す全国知事の共同宣言において、正確な情報発信が重要とされたが、こういったことに対する次年度の県の事業があるか。

⇒事務局

県では、県内企業等が行う外国人労働者と地域との交流の取組や、自治会やNPO法人等が実施する多文化共生の取組について支援をしている。このような事業を通じて外国人に対する理解が深まればと考えている。

## ○鹿児島大学法文学部

日本語教育については、義務教育課が学校現場を、くらし共生協働課が地域の自治体やNPOを対象としているが、支援を必要とする児童や保護者にしっかりとアプローチがされるよう、連携して取り組んでいただきたい。また、人権同和教育課も巻き込んで関連部局が一体となって取り組んでいただきたい。

### アンケートに基づく外国人材受入に関する意見交換

#### ○県農業協同組合中央会

農業分野では、技能実習から特定技能への移行時に県外に出て行くことが多い。賃金を簡単に上げられないため、外国人材を引き留める何かいい方法がないか悩んでいる。

### 高度外国人材に係る質疑応答，意見交換について

#### ○鹿児島大学法文学部

本県で留学生の雇用が進まないのは何が支障になっているか。

⇒アールアドバンス株式会社 綾戸代表

一番の要因は、企業が留学生に慣れていないことであると思う。留学生に企業訪問をしてもらい、面談を行った企業では、「留学生はこんなにもコミュニケーションが取れるのか。メモも漢字で書けるのか。うちで採用できないか。」と一気に変わった事例もある。

#### ○鹿児島大学国際事業課

本学では、日本での就職を考えている留学生は少ない状況にあるが、希望する留学生に対して、日本特有の就職活動についてのセミナーを始めたところである。また、他大学と連携して日本語教育の強化を計画している。

#### ○鹿児島県（産業人材確保・移住促進課）

一部の大学や専門学校のキャリアコンサルタントなどから、外国人留学生の数が増える一方で、それに見合う就職先がなく、日本や九州に残りたいという学生の意向に応えられないという話を聞いている。

事業者側の間口を広げるため、県はどのようなことに取り組んだらよいか。

⇒アールアドバンス株式会社 綾戸代表

高度外国人材の採用に踏み切る企業の窓口は、担当者でなくほとんどが経営者である。経営者と対面で話をすると、外国人雇用の導入が大きく前進する事例が多い。

外国人採用実例をもとに、各企業に寄り添い、企業の意欲をかき立てることが必要。また、企業ごとに課題や、求める人材の役割、日本語能力も違うので、企業の情報を的確に把握して、ワーカーと高度人材の仕事を整理した上でマッチングをしていく作業が必要である。